

2023

高校生まちづくりスクール 活動報告

2024年3月発行 / 子ども未来局 青少年育成課(プロジェクト編)
市民局 生涯学習推進課(ビジネス編)

〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号 TEL 054-221-1207(生涯学習推進課)



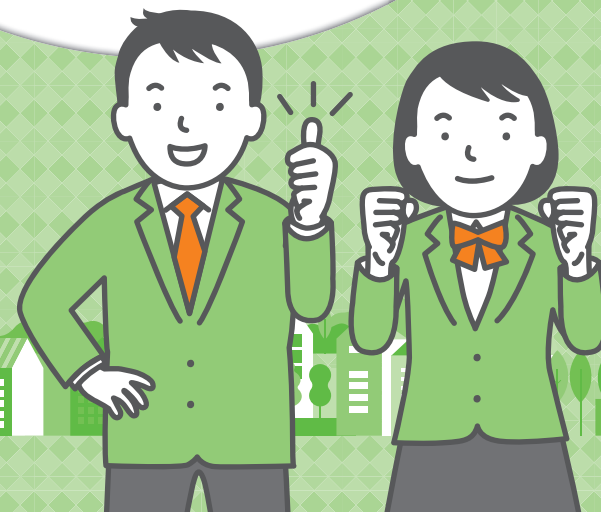
静岡市

高校生 まちづくり スクール 2023

活動報告

プロジェクト編

ビジネス編



高校生 まちづくり スクール2023

活動報告

「高校生まちづくりスクール」略して「まちスク」!

若者がまちづくりに参加するきっかけづくりとして、

自分の興味関心をもとに地域課題を考えていく講座です。

プロジェクト編 / ビジネス編 の2つの講座を開講しています。

もくじ 1

プロジェクト編

カリキュラム 2

プロジェクト紹介 3

参加者アンケート 6

講師メッセージ 7

ビジネス編

カリキュラム 8

ビジネスプラン紹介 9

参加者アンケート 13

講師メッセージ 14

「高校生まちづくりスクール」は、
「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」
に位置づけられています。



プロジェクト編 カリキュラム

自分自身の興味関心を探り、大学生等のサポーターとともに、自らが感じた地域課題を解決するための企画をグループで考案し、実施します(全6回)。

第1回
7/22 **自分を発見しよう!**
チームビルディング、自分の興味・関心の言語化

第2回
7/23 **まちづくりって何?**
まちづくりとは何か?を知る、マイテーマを決める、チーム作り

第3回
8/20 **マイプロジェクト会議①**
インタビューのふりかえり、マイプロジェクトの企画書作成

第4回
10/1 **中間報告会**
活動の進捗共有、今後の活動計画作成、ゲストからのコメント

第5回
10/29 **マイプロジェクト会議②**
活動の進捗共有、グループ間でのブラッシュアップ

第6回
11/23 **公開プレゼン!**
これまでの活動のふりかえり、ゲストからのコメント



プロジェクト紹介 (発表順)

1 若者のやりたいこと探し

「子ども同士の交流を盛んにさせたい。」という目標のもと、中高生が交流できるイベントを企画し、交流会を2回実施しました。

より多くの中高生が集まるにはどうしたら良いかをしっかり考えて企画することを心掛けました。



3 清水銀座商店街 ～商店街の盛り上がりをもとに～

空き店舗が目立つ地方商店街を活性化することを目標にして、取り組みました。商店街の現状を調査し、商店街の知名度を上げるためイベントにスタッフとして参加したほか、SNSでの情報発信を行いました。



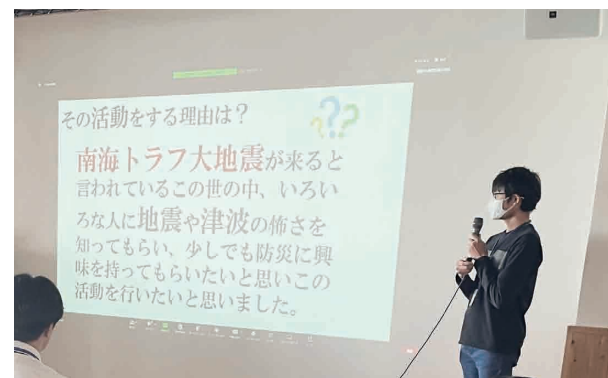
2 スポーツ広場を作るために…

まちに「スポーツ広場が必要である」と感じたため、スポーツ広場を設置するためには、市への提案や、近隣住民の理解等が必要であることを知りました。自分たちにできることは何かを考え、インタビューでヒントを頂き、親子を対象としたスポーツイベントを考案、提案しました。



4 楽しく学ぼう防災交流

防災をテーマに活動を行い、子どもから大人まで様々な世代が楽しみながら、防災について考える「防災交流会～防災カルタ編～」を企画し、実施しました。どうしたら防災について楽しく学べるかを企画実施を通して考えました。

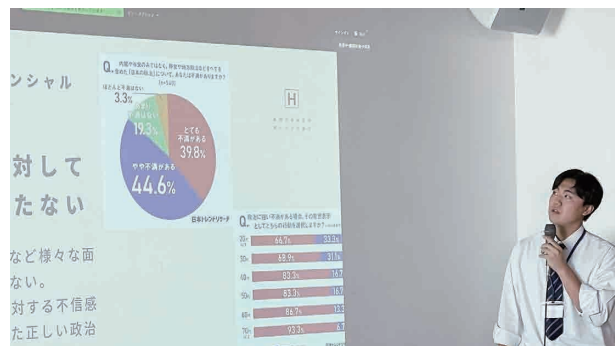


5

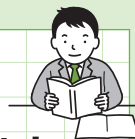
「静岡の未来を創る」 高校生政策立案コンテスト 静岡市を政治参画率トップの街へ

現在日本の大きな課題となっている若者の政治参画率の低下に問題意識を持ちました。

そこで、静岡市の課題である人口流出について、その問題の当事者になる静岡市の高校生をターゲットとして「政策コンテスト」を提案しました。



参加者アンケート



プロジェクト編に参加した10名の高校生に聞きました!

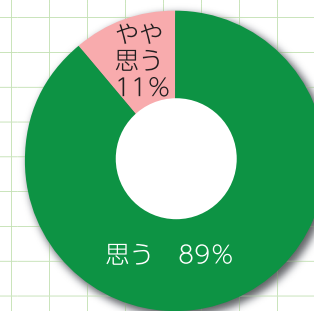
Q1

自分自身の興味や問題意識への新しい気づきを得られましたか?



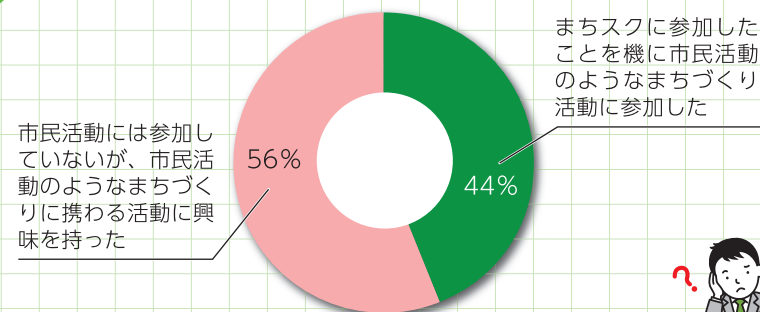
Q2

自分の将来を考える機会になりましたか?



Q3

あなたのプロジェクト編への参加と市民活動について



Q4

プロジェクト編に参加した感想を教えてください。

困ったとき、改善点などを丁寧に教えてくれて、心強かったです。

皆さん本当に親切で交流しやすく初めての体験が多くできました。サポーターさん、忙しい中ありがとうございました。

休憩の時、サポーターさんや他校の皆さんといろいろな話ができて楽しかったです。

講師メッセージ



NPO法人 わかもののまち 代表理事 土肥 潤也 さん

高校生まちづくりスクールプロジェクト編の大きな特徴は、ただプロジェクトを立案するだけでなく、実際に実行するところにあります。今年は、商店街とコラボをしたものや、若者世代の交流に取り組んだものなど、多くがアクションまで結びつけました。中にはプロジェクトを実行する過程で壁にぶつかったものもありましたが、そこから学び取れることも多くあったように思います。

アイデアを思いつくことと実行することの間には大きな開きがあります。まちスクで取り組んだことを生かし、これからのたくさんのアクションを踏み出していきかけになっていけば嬉しいです。



NPO法人 わかもののまち 鈴木 貫司 さん

5つのプロジェクトに分かれた今回の高校生まちづくりスクール。

自分と対話して、仲間と一緒に考え、刺激をもらいながら自分たちの想いを形にしていけたのではないかと思います。

プロジェクトをつくり、実行していく過程で、人と出会い、発見や学ぶをすることで、自分の世界が広がっていく感覚があったのではないのでしょうか。頭の中で考えていることと実際にやってみるといことは、大きな差があります。

今回のまちづくりスクールでは、どのグループでも「やってみよう」という気持ちがあり、その分だけ行動も増え、学びが多かったのではないかと思います。

ぜひ、今回のまちづくりスクールでの経験や学びをこれからは活かしていってください。

ビジネス編 カリキュラム

マネジメントやプランニングを学び、市内で活躍する企業人からアドバイスをいただきながら、地域課題を解決するビジネスプランをグループで考案する講座です。最終回は公開プレゼンテーションでビジネスプランを提案します！

第1回
7/8

プランニングのコツを学ぼう!

講師から、「コミュニティビジネス」の講義がありました。

第2回
7/22

チームビルディング

第1回の宿題「月3万円の利益を上げる! アイデアシート」の個人プレゼンを行いました。投票によって選ばれた上位7プランごとにチームを編成しました。

第3回
8/5

プランを深めよう!

市内で活躍する企業人である3名のゲスト講師や様々な大人たちに、プロの視点からアドバイスをいただきました。

第4回
8/19

プレゼンしてみよう!

最終回に向けて、プレゼンの練習を行いました。講師から企画に必要な要素や構成についてアドバイスをいただきました。

第5回
8/26

公開プレゼン!

会場及びオンライン視聴の一般聴講者に向けて、チームで練り上げたビジネスプランを発表しました。約2ヶ月間、真剣に取り組みました。



ビジネスプラン紹介 (発表順)

1

レッツ アグリ プレイ Let's Agri Play!!

人手不足の農家と農業体験したい人がマッチングできるような、収穫体験と収穫物の持ち帰りをセットにしたプランを考案しました。収穫体験後には、農家と参加者のお茶会(交流会)を開催することで世代間交流も図ります。私たちが「地中系アイドル『もぐら』」として、プランを広めるために活動します。



3

一つの選択で食品ロスを減らす

スーパーでの惣菜ロスゼロを目指し、高校生がスーパーの惣菜を購入したくなるような販売方法を提案しました。コンビニのレジ横にあるホットスナックのような「箸を使わずに手軽に食べられる」「いつでも温かい」惣菜売り場をスーパーに設けることで、部活帰りや塾帰りの高校生の利用者増加を狙ったプランです。



2

ワールド キッチン WORLD KITCHEN

日本では在日外国人が増えていることから、在日外国人と一緒に料理を作りながら気軽に交流できる企画を考えました。宗教上の理由で食べられない食材を使わない「宗教デー」を月に1度設け、誰もが参加できるように工夫しました。将来的な目標は、静岡わいわいワールドフェアに参加することです。



4

安倍川餅×かき氷

静岡で有名な安倍川餅の知名度を上げるために、静岡の茶氷とコラボした商品を考案しました。高校生と保護者を合わせた542人にアンケートを実施し、食べたいと思うかき氷のイメージを調査しました。今後は、オシャレな見た目やトッピングを充実させ、幅広い世代から注目される商品を目指していきます。



ビジネスプラン紹介 (発表順)

5

あ! CUP OF SHIZUOKA

美容と健康を完全重視し「映え」を狙わない生ジュースを提案しました。使用する野菜や果物の種類について栄養士と相談したり、自分たちで栄養価の実験や、生ジュースの試作を繰り返しながらプランを練りました。野菜や果物のB級食材を冷凍して使用することで、フードロス対策にも貢献していきます。



7

カフェサポ

若者をカフェに集客するためのサポーターとして活動するプランを、お店へのインタビューを通して考えました。SNSを利用して若者を対象とした集客のためのアンケートを実施し、その結果をカフェに提供します。また、SNSを活用してお店の宣伝もします。地域のカフェの利用者増加に貢献する取り組みです。



6

水害時に対応できる備蓄食セット

昨年の台風15号の被害状況や断水の経験から備蓄の必要性を感じ、美味しい缶詰の入った備蓄食セットを考えました。高校生の子供がいる保護者650人に対するアンケートの結果から、必要な備蓄食の量を確保できていないことが判明しました。備蓄食セットの提案を通して市民の防災力向上を目指しています。

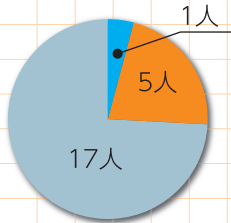




参加者アンケート

ビジネス編に参加した高校生のうち23名に聞きました!

【学年】
■ 1年
■ 2年
■ 3年



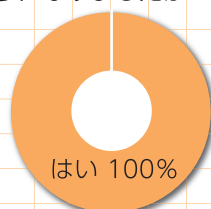
【出身校】

- ・ 科学技術高校
- ・ 静岡学園高校
- ・ 静岡サレジオ高校
- ・ 静岡商業高校
- ・ 静岡翔洋高校
- ・ 静岡西高校
- ・ 清水桜が丘高校
- ・ 星陵高校
- ・ 常葉大学附属橘高校

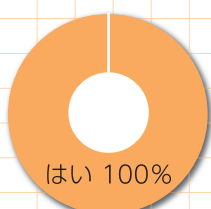
Q1 全5回を通して、ビジネス編はいかがでしたか



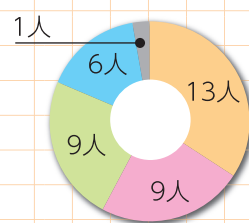
Q2 参加前よりも「起業」や「ビジネス」が身近に感じられるようになりましたか



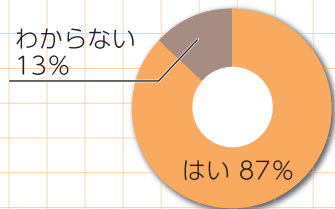
Q3 今後、地域や社会を良くするために行動していきたいと思えますか



Q4 まちスクで経験したことは、今後のように役立つと考えられますか



Q5 今回考えたプランを実現することになった場合、継続して取り組んでいきたいと思えますか



- 推薦入試やAO入試
- 進学先の選択
- 職業や就職先の選択
- 起業
- その他



※アンケートは参加した高校生のうち回答が得られたものについて掲載しています。

Q6

まちスク(ビジネス編)に参加した感想を教えてください。



高校生のアイデアを大人の方々が本気になって話を聞き、協力していただいたことがとても嬉しかったです。



どの回もとても楽しかったです。課題に向き合ったり、私たちがではの解決策を考えるのがとてもおもしろかったです。

厳しいアドバイスだけでなく、たくさんの方々の助言にたくさん救われました。様々な考え方をする人がいて、たくさんアイデアに囲まれる、新鮮な時間となって、とても楽しかったです。



講師メッセージ



静岡大学地域創造学環客員教授
NPO法人サプライズ 代表理事
飯倉 清太 さん

静岡市高校生まちづくりスクールビジネス編は、PBL(プロジェクトベースドラーニング)という課題解決型の学習を取り入れています。高校生が経験したことのない「ビジネス」をイメージしてプランを練り上げることは、とても大変だったと思います。

また毎年最終日に関係者の皆さんに発表をする場を設けているのはアクティブラーニングを取り入れ「アウトプットを用意する」ためですが、参加したみんなにはプレッシャーがあったのではないのでしょうか。

プレゼンというのは「誰がやるのか」「何をやるのか」「どこから始めるのか」を提示することが大切であり、圧倒的当事者意識を持って臨むことで、視聴者からの納得感を得ることができます。さらに「少しやってみたら違っていた」という仮説の検証も必要となってきます。

そんな中、2023年の受講生は紆余曲折あったものの本当に素晴らしいプレゼンテーションを披露してくれました。動画を使ったチームや、実際にインタビューを活用する人側に立った視点を持った企画や、自分自身をサンプルとして実験を行ったチームなど、例年に比べて、自分ごとになっているチームが多かったと感じました。

「正解を選ぶのではなく、選んだものを正解にする力」まさに今回の受講生たちはこの言葉を実践してくれたと思います。これからの生活でさらに磨きをかけ、さらに今後社会に出た時に今まさに必要とされている「自ら行動できる人材」となってくれたら嬉しい限りです。ぜひこれからも頑張ってくださいね。